

コロナ変異株の流行時期によって後遺症のパターンが変化する

新型コロナウイルスには多数の変異株が出現していますが、その種類により新型コロナウイルス感染症後遺症 (long COVID) の症状が異なるのかはまだわかっていません。今回我々は、当科コロナアフターケア外来受診者を対象に、従来株、デルタ株、オミクロン株の流行時期別にlong COVIDの症状を比較し、以下の結果を得ました。

- ①オミクロン株流行期の感染者は、軽症者が多い、急性期の入院率が低い、感染から当科受診までの日数が短い
- ②オミクロン株流行期の感染者は、デルタ株流行期の感染者よりも、嗅覚・味覚障害・脱毛が少ない、倦怠感・不眠・咳嗽が多い

感染した変異株の種類によって、long COVIDの症状が異なることを指摘した研究結果であり、後遺症状の病態を明らかにする上で重要と考えています。

